

令和3年度 介護の日 作文・写真コンクール作品集



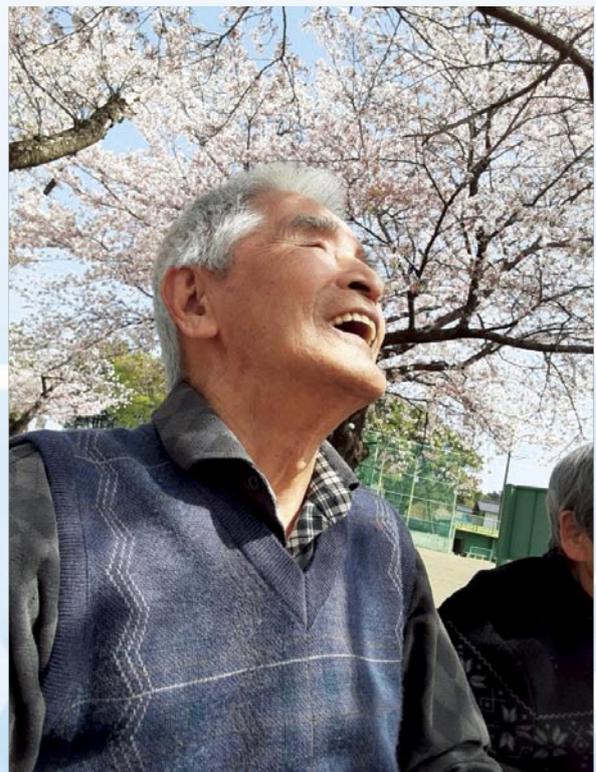
茨城県老人福祉施設協議会長賞
グエンティホア（希望の森）
「美人ばかりで最高だ」



茨城県知事賞
中根 直子（縦山デイ）「ばあちゃん、食べちゃうぞお〜」



茨城県介護福祉士会長賞
栗本 麻衣子（ユアアイの家）
「黄金色の光の中で」



審査委員長賞
飯田 有紀子（四季の郷）「春爛漫、束の間の外出」



広報委員長賞
佐藤 淳子（阿見翔裕園）「だいすき」

介護福祉士会長賞 齊藤良子（セ・シボンかしま）
「世界で一つだけの花」



広報委員長賞

佐藤 あすか（玉樹）「外出自粛。出前に欢喜！」

はじめに

十一月十一日は、「介護の日」です。「介護の日」は、介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護に取り組む家族を支援するとともに、地域社会における支え合いや交流を促進する日とされております。

この趣旨を踏まえ、県と茨城県老人福祉施設協議会との共催による「介護の日」作文コンクールを実施し、県民誰もが介護について考えるきっかけとするとともに、茨城県老人福祉施設協議会主催で「介護の日」写真コンクールを行い、高齢者福祉・介護現場での多くのふれあいと感動を伝えることとしております。

今年度は、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されましたが、関係する皆様の御協力により、多数の作品のご応募を得て、第十三回目となる両コンクールを開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。

作文コンクールにおいては、二百三十一作品の応募があり、茨城県知事賞、茨城県議会議長賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県社会福祉協議会長賞、茨城県理学療法士会長賞、茨城県介護福祉士会長賞の各賞二作品、合計十二作品を選定いたしました。また、写真コンクールにおいては、百八十六作品の応募があり、茨城県知事賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県介護福祉士会長賞等を選定いたしました。

この度、両コンクールの受賞作を作品集にまとめました。多くの皆様に御覧いただくことで、介護についての理解と認識を深める一助となれば幸いです。

目 次

飯島 ころろ 「心を元気に」……………	1
馬場 のどか 「学びと幸せ」……………	2
加藤 日菜子 「ありがとうのサイン」……………	3
坂入 良樹 「最期に父がくれたもの」……………	4
中川 顕一郎 「ぼくの好きな赤飯」……………	5
石川 章 「老人ホームに入所して」……………	6
萩谷 優菜 「十メートルの介護」……………	7
早乙女 洋子 「ありがとうね」……………	8
張 恩 瑞……………	9
「まだできることはいっぱいあるよ!」……………	9
ニコラス ニンファ アルケロ……………	10
「外国人の日本での介護への道」……………	10
ハトウ マイ……………	11
「私の人生を変えた、介護!」……………	11
平野 彩里 「ありがとう」……………	12
茨城県老人福祉施設協議会の取り組み……………	13
茨城県社会福祉協議会の取り組み……………	14
茨城県理学療法士会の取り組み……………	15
茨城県介護福祉士会の取り組み……………	16



秀作 鈴木 尚子 (あかねサクラ館)
「施設で孫に看てもらえるとは!」



秀作 塚田 香織 (デイサービスセンターじゅげむ)
「取れたよ。ほれっ!」



秀作 羽生 静香 (樺の木荘)
「歳の差1世紀!!」



佳作 石川 佳一 (葛城デイ)
「お地藏様 いつもありがとう」



佳作 猪瀬 聡子 (デイ玉樹)
「今年も採れたよ!玉樹のお芋」



佳作 大高 圭輔 (ドルフィンサテライト)
「採れたてだよー」



特別賞 藤川 敏子 (希望の森)
「さっぱりしたわ」



茨城県知事賞

心を元気に

私のお母さんとお父さんは介護福祉士という仕事をしています。そんなお母さんとお父さんは私の憧れです。なぜならいろいろな病気、気持ちをもらったおじいさん、おばあさんに少しでも元気をと一生懸命、働いているからです。

ある日、仕事から帰ってきたお母さんが教えてくれました。お母さんの働いている所には、毎朝おじいさん、おばあさんがバスで来ます。私はそう聞いたとき、おじいさん、おばあさんが、今日も楽しみなだとニコニコでバスに乗りこむ姿が思い浮かびました。でもそれは違ったそうです。バスに乗る人の中には、「早く行け」と追い出される人、家族に嫌そうな顔で見送られる人がいるそうです。私は、そんな事実に驚きました。おばあさんやおじいさんは悪い事なんてきつとしていません。なのにどうして家族に冷たい心を向けられてしまうのか。それは認知症や病氣、考え方の変



鉾田第一高等学校附属中学校
1年生

飯島 ころこ

化からだと思います。でも、それはおじいさん、おばあさんもなりたくてなったわけではないと思います。だから温かい目で見てもらいたいと思いました。大切な家族を心から見送ってもらいたいです。

私のお父さん、お母さんは、おじいさんやおばあさんの命を、心を大切に仕事をしています。温かい目と温かい心で全力でおじいさんやおばあさんを元気にしてくれています。この世界に介護福祉士という職業をもった人はたくさんいます。たくさんの方がたくさんの方の心を「介護」という仕事で元気にしてくれます。私は、そんな仕事、「介護」はとてもかっこいいと思います。

たくさんのおじいさんやおばあさんに元気をたくさんつけてくれている「介護」。それと、介護福祉士の皆さんに感謝とエールを送りたいです。



秀作 稲葉 秋子 (延寿館・デイ)

「そっくりな姉妹」



茨城県知事賞

学びと幸せ

「あなたがいてくれてよかった」そう言われて涙が出そうになった。介護が好きだ。と改めて思った瞬間だった。

新人の頃、私は、苦手だなと思う利用者の方がいた。その方は、口数が少なく、食事以外の時は自室で過ごされるが多かった。他の利用者の方と話をすることも少なく、職員が話しかけても必要以上のことは話さないという印象の方だった。私は、人と関わるのがあまり好きではない方なのだと思い、積極的にその方と関わろうとしなかった。一年後、その方が亡くなり、生前書いていた日記が見つかった。ご家族に了承を得て、その日記を読ませて頂いた。そこには、職員や他の利用者の方とこんなやりとりをした、こう言われた、こう思った等、日々の感じたことが書かれていた。私についても書かれてあり、「あの人は何もしてくれない。嫌な人だ」と書かれていた。

とてもショックだった。本当は皆と話したかつ

たこと、声を掛け、気にかけてもらいたかったことに気づこうともしなかった自分がとても情けなかった。

この経験は、辛いものだったが、利用者の方と真剣に向き合うことの大切さを教えてくれた。してほしいことを遠慮して言い出せない方もいる。気づいてほしいというサインに気づくことの大切さを学んだ。

介護という仕事は、大変なこともある。心ない言葉を言われたり、叩かれたり、時には、汚物を投げられたりすることもある。けれど、それ以上に利用者の方のふとした言葉や優しい笑顔に元気をもらっている。中庭で一緒に空を眺めている時間が一番好きだ。ただ、隣に座っていられるだけで幸せだと感じる。こんなにも温かく、楽しい仕事ができることに感謝している。この喜びを少しでも返すことができるよう、一人一人の利用者の方と誠実に向き合っていきたい。



馬場^ばのどか



秀作 大森 奈美 (ドルフィンサテライト)

「はづもの」

茨城県議会会議長賞

ありがとうのサイン

私は、介護の仕事に就きたいと思っている。そう思ったきっかけは、中学での職場体験だ。老人ホームへ行き、デイサービスに来ていたお年寄りの前で私はカラオケを披露した。自分でもよく勇気が出たなと思ったが、おじいちゃんやおばあちゃんたちが一緒に歌いながら、手やタンバリンを叩いてくれて、最高に楽しかった。何より、お年寄りの笑顔と「ありがとう」の言葉がとても嬉しかったのだ。

でも、困ったこともあった。認知症の方から何度も同じことを聞かれ、どう対応していいのか混乱してしまったのだ。そこで私は、施設のヘルパーさんはどう対処しているのかなと観察してみた。すると、ヘルパーさんは何度も同じ答えを丁寧に返してあげていた。部屋が分からなくなって、徘徊しているお年寄りに対しても何度も部屋に連れて行ってあげていた。すると、お年寄りたちも、「ありがとう」のサインを出しているのに気が付いた。不自由な手をちよっと上げたり、ぶっきらぼうに



多賀高等学校 3年生

加藤 日菜子

「どうも」と毎回答えていた。私が食事を運んだ人は、口角を上げて、ありがとうのサインをくれた。ありがとうのサインは様々だ。でも私に仕事のやりがいを見せてくれた。だから私はお返しの歌を歌ったのだ。

高校生になって、実際に介護の現場が精神的にも体力的にも辛いことを知った。でも本当に大変なのは家族を介護している方たちだ。悩みや心身の疲れを常に抱える毎日は辛い。

私は介護に取り組むことは、人の本能や本質に對峙することだと思う。嫌な事、辛い事はきつとたくさんあるだろう。それでも、ありがとうのサインがあつたら私は力が出る。

この気持ちを忘れずに、私は進学して、より広く深く介護の勉強をしようと思決意した。そして、将来介護職に就いた時に、今度は私が、お年寄りや介護をしているご家族の方々に、ありがとうのサインを出して伝えていきたいと思う。「こちらこそ尊い仕事に就かせてくれてありがとう」と。



秀作 香取 明日美 (阿見翔裕園)

「おまじないの効果」

茨城県議会会議長賞

最期に父がくれたもの

私は、介護業界に携わり十五年が経つ。過去に、祖父に介護が必要な時に、一番身近にいながら何もしてあげられなかった事が、介護を仕事に選んだきっかけである。亡くなった時、「こんな後悔したくない」と強く思った事を今でも鮮明に覚えている。そんな私の父は簡単に言うとは、明るく自分の弱みを見せない昭和の親父という感じの五十八歳の父である。その父が昨年、体に異常を感じ、病院を受診すると、がんと診断された。

数日後、私は父の病院に行き状態を聞くと余命一年の宣告をされた。がんと診断はされたが、仕事もしていて、毎日お酒も飲んで、元気に過ごしている父があと一年しか生きられない？頭が真っ白になった。

そこから病気の進行は早かった。足や腰に痛みが出始め仕事を辞めた。車の運転もしなくなった。抗がん剤治療で病院に行くか家で横になっている、そんな生活をしていた。弱みを極力見せないようにする父に言葉をかけてあげる事すら出来なかった。



特別養護老人ホーム

やまゆりの郷

坂入 良樹

さかいり

よしき

何か自分に出来る事はないか、十五年前と同じ後悔をするのか。ここまで育ててくれた父に恩返しが出来るのは今しかない。今は声が聞けて生活する手伝いが出来る。私はこの十五年間の知識、技術を全て父に尽くそうと思った。初めは照れもあったのか、拒否されたり怒られたりもした。しかし、今の父が使いやすい物を揃え、いつも声をかけた。次第に嫌がっていたお風呂やトイレでさえ「肩を貸してほしい」「トイレに行くから来てくれ」と頼んでくれるようになり「ありがとう」とも言うてくれた。

しかし病状は良くなかった。宣告されてから八か月後父は入院した。面会した時には家での事をととても感謝してくれていた。数日後私と母が手を握る中眠る様に息を引きとった。

この一年の出来事はこれからも施設の入居者を自分の持てる力でサポートしていけと改めて父が教えてくれた気がした。最期の父の教えを守り、この先も入居者が一人でも多く笑顔になれる施設作りをしていきたい。



秀作 黒澤 遥香 (あかねサクラ館)

「鬼にびっくり!」



茨城県老人福祉施設協議会長賞

ぼくの好きな赤飯

水戸に一人で暮らしている祖母は、八十を過ぎたが、元気だ。そして、明るい。

ぼくはその姿しか知らない。なぜなら、たまにしか会えない祖母は、ぼくたちがくるときには、元気な姿を見せてくれるから。

実は、二度も脊髄の手術をしている。杖を二本使って、やっと歩行をしている。着替えるのも、お風呂に入るのも、すわるのも、立つのも、やっと、どうにかやっている。

元気な祖母は、料理が得意だ。行くと、必ず、赤飯と煮物でもてなしてくれる。そしておみやげに、特製の煮豚も。

そういえば、この頃、赤飯をつくった話を聞かなくなった。赤飯があるときは、母と一緒に手伝ったときだ。

祖母の赤飯の色は少し違う。豆の量も違う気がする。もちろん、おいしいのだが。

もう、祖母は、台所に立って、重い蒸し器を持つたり、たくさんのもち米をふかすことはむずか

しくなってきた。でも、ぼくたちが喜ぶからと、母を呼んで、指図し、赤飯をつくらせる。

身体が前のように動かなくなっても、赤飯をつくることを、やめたくないようだ。祖母の赤飯は、今までたくさんの人をもてなしてきた。

母は言う。

「おばあちゃんと同じようにできたかな。」

ぼくは、

「おいしいよ。」

祖母は、

「もう、おまえにまかせられるかな。」

母は、悲しそうに笑っていた。きつと、ぼくと同じように、母も、祖母の赤飯をずっと食べていたかったのだと思う。

母が、水戸へ行く回数が増えた。

もどってきたときには、おひつにたっぷりのお赤飯。おひつのふたをあけると、祖母の

「ばあちゃんがつくった赤飯だよ。」

そんな声と笑顔が、湯気と一緒に立ちこめる。



古河第二高等学校 1年生

なかがわ
中川 顕一郎
けんいちろう



佳作 瓊井田 真紀 (ひぬま苑)

「私もカボチャも元気だよ!!」



茨城県老人福祉施設協議会長賞

老人ホームに入所して

会社定年三年前、私が夜帰宅すると母が倒れていた。電話で至急兄を呼んだ。二人で布団に寝かせようとしたが、重くてどうにもならなかった。体は小柄なので軽そうだったが、見た目とは違っていた。畳に寝た状態で掛け布団を掛けてあげるだけだった。季節は十二月の夜であり、部屋はだいぶ冷えきっていた。

母には大変申し訳なかった。翌朝救急車で入院した。病院からグループホームに入所、そのとき親切な職員が、車椅子に移る方法を教えてくれた。母をベッドに起こし上半身を抱え、腰を回転させて座らせた。「なるほど、こうすれば力を入れることなく、動かせるんだな」と感心した。母が亡くなり、一人暮らしになって食事が乱れた。現役時代でも会社の健康診断で栄養失調と指摘された。道路・駅の点字ブロックに躓いて転んだ。偶然なのか、母が倒れた十二月二十六日の夜、私は風呂場で倒れ飲まず食わずで四日間、転げ込んだ部屋で過ごした。爪は紫に変色していた。



いしかわ
石川

あきら
章

人生を諦めかけたが、もう一度やり直してみようと救急車を呼んだ。病院退院後は家に戻らず、特別養護老人ホームに入所した。私は暗い寂しいイメージを持っていたが、それは間違いだった。食事は三食美味しく贅沢過ぎる程だ。入所当時は生きる希望を失っていた。ところが新聞に投稿していることを知ると、俳句・短歌・川柳をネットで調べてくれる。私が粗相しても嫌な顔もしない。職員と入所者の関係でも心の繋がりがあふれる。家族のような温かい雰囲気がある。認知症の入所者が同じことを何回も何回も聞いても「ハイわかりましたよ」と答えるのだ。人間が出来ている、偉いの一言に尽きる。居室の入口に花飾りを付けた。これは色鮮やかな折り紙である。フロアには夜の花火も飾られ、眺めるたびに元気づける。遠慮なく楽しく生活出来る場所だ。

運動会玉入れ・七夕・夏まつり、買い物いろいろの行事がある。私はここで人生を全うしたいと願っている。



佳作 青柳 有紀 (阿見翔裕園)

「特大なす採ったどー！」



茨城県社会福祉協議会長賞

十メートルの介護

介護の日の作文を書くにあたって、私はすぐに曾祖母のことを思い出した。曾祖母は数年前に他界してしまっているのだが、私は生前、曾祖母のことを「おっきいばあ」と呼んで慕っていたことを覚えていて、曾祖母は祖父母と共に暮らしていた、よく会いに行っていた私は、耳の遠い曾祖母の為に大きな声を出しながら会話をしていた。

曾祖母は老人ホームに通っていて、私が祖母とお菓子を食べていると、必ずと言っていいほど曾祖母の乗った車の音が聞こえた。家の前には老人ホームの白い車が止まっている。スタッフの方には支えられながら車を降りる姿を見て、私は毎回玄関を飛び出した。スタッフの人にはこんにちわ、曾祖母にはおかえり、と大きな声で挨拶をして曾祖母のかばんを受け取って、杖を持っていない方の手を握ると、スタッフの人に褒められて、曾祖母からはお礼を言ってもらえた。私はそれが嬉しくて、毎回迎えに行っていた。玄関までのおよそ十メートルを、曾祖母はとてもゆっくりと歩いて



水戸桜ノ牧高等学校 1年生

萩谷 はぎや 優菜 ゆうな

いく。シワシワの手を握りながら、今日のできごとを話したり、楽しかったかを聞いてみたりした。曾祖母はひとしきり私の話を聞いたあとで、ホームで作った折り紙や塗り絵を、あのシワだらけの手で私にプレゼントしてくれた。

私は老人ホームのスタッフの方や曾祖母、母に褒められるのが嬉しくて、迎えに行くのを続けていたのだと思う。私が曾祖母を「介護」していた距離はたったの十メートルだけだったが、きっと誰にも何も言われなかったらすぐに迎えに行くのをやめてしまっていただろう。感謝されることが嬉しくて、十メートルの介護を続けられていたように、これからは私も、これから介護が必要になるであろう祖父母の時、迷惑をかけている両親の時には、介護してくれる方への感謝と敬意を忘れずに、少しでも介護の手伝いをしていきたいと感じた。



佳作 大賀 雅一 (ドルフィン)

「空より眩しい あなたの笑顔」

茨城県社会福祉協議会長賞

ありがとうね

杏花訪問介護事業所

早乙女

洋子

玄関前の桜並木の下を通り抜けると目指す三階建ての建物が目の前に現れる。中に入ると紫峰筑波山が正面に眺望でき田園風景が一望できる。庭には季節の木々や草花が咲き誇り、蝶が舞い小鳥達も遊びに来る。

私は訪問介護員として主に、このケアハウスに入居している方々を担当している。みんなこの絶景が大好き。特にTさん（七十代女性認知症）は、大のお気に入りです。毎日、飽きる事なく眺めている。長い間、ご主人の介護をしてきた事を聞いた時、私も主人が慢性腎臓病から透析になり、脳内出血で亡くなるまでの姿を見てきたので、他人事とは思えずその辛かった胸の内はよく解る。「お疲れ様」と、両手を握ってあげるといつも明るいTさんが涙ぐんだ。そして、すぐ「ありがとうね」と、笑顔になった。理解と共感で安心と安らぎを与える事ができた一瞬です。

掃除と一緒にやる事や、本人ができる事を任せる事は、残存機能の活用や認知能力の向上につな

がる。そして、それ以上に本人は達成感がみなぎった生きた表情になった。「すっきりした」との言葉あり、心身の相乗効果も期待できる。

ある日、暦を見ても日や曜日が解らないようなので、日めくり暦を作った。初めはできなくて何度も教え、やっと、できた時「やればできる」を実感。毎日、日めくりを楽しみ、その姿は、日を追う毎に表情にも一段と活気が見られるようになってきた。

認知症はいつ誰が発症するか解りません。四年後には、六十五歳以上の五人に一人が発症すると示されている。みんな安心して生活できる環境づくりが最も大事だと思う。

Tさんは、暇な時窓の景色を見て過ごす。雲の流れ、行き交う車の流れを見てると時の経つのを忘れてしまう。でも、仕事が終わるヘルパーに、いつも「ありがとうね」を決して忘れない。こちらこそ「ありがとうね」互いに交わす帰りの挨拶が飛び交うひと時です。



佳作 海東 妙子 (れもん)

「111歳の東京オリンピック！」



茨城県理学療法士会長賞

まだできることは

いっぱいあるよ！

「ありがとう」と久しぶりに優しい言葉を聞いた3年前のある日のことでした。その話をしてくれた人は私の子どもの時忙しい両親の代わりに育ててくれた叔母さんでした。いつも笑顔で応援してくださった叔母さんの顔から笑みが消えたのは真夏のある日からでした。家で食事の準備をしている際に急に脳出血で倒れ、救急手術を受けました。しかし、発見が遅くなっていて、脳出血の後遺症で利き手側の片麻痺が残ってしまいました。当時のショックでうつ状態となった叔母さんに相談員からリハビリテーションとデイサービスへの通いを勧められました。「もう戻らないよ、やりたくない」と言いながらリハビリテーションを始めた叔母さんでしたが、2週間が過ぎた頃に小さな変化が見られました。

時間になると自分から服を選んだり、食事の量も少しずつ多めになりました、生活への意欲を感じているようになりました。その不思議な光景が気になった私は、叔母の通っている施設へ同行して

ました。リハビリテーションを終え、食事時間となった時、ある介護職員さんが来て叔母さんにスプーンの持ち方や姿勢の直し、また、安全なトイレの使用のやり方、安全な歩行の仕方などを教えてくださいました。その時、私は利き手が使えなくなつた叔母さんに何でもやってあげてしまい、叔母さんが自分でできるところまで奪っていたのではなにかと思えました。家で「何もできない」と思い込んで挫折を感じた叔母さんが介護職員さんの支援と励ましを通して障がいを持ちながらも感じられる生活の楽しみがあることに気づいたのではないかと思えました。それから考え直した私は叔母さんができそうな家事や趣味であった庭仕事などを見つけ小さな達成感や楽しみを感じてもらいました。いつもの庭仕事のある日、叔母さんから、「私はできないと思っていたがまだできることはいっぱいあるよね。応援してくれてありがとう」と晴れやかな笑顔で話してくれました。



アール医療福祉専門学校 2年生

張 恩 瑞
ちゃん うん そ



秀作 鈴木 頼子 (あかねサクラ館)

「恋文」



茨城県理学療法士会会長賞

外国人の日本での

介護への道

来日した時、自分が将来、介護福祉士になるとは思っていませんでした。しかし、振り返ってみると、それが日本にいる目的であり、私にとっての天職なのかもしれないと思えるようになりました。

私はフィリピンで看護大学を卒業し、看護師の資格をとりました。卒業から二年後、日本へ留学する機会が巡ってきましたので、日本語学校で頑張って日本語を勉強しました。日本語学校を卒業する前に、先生から「日本でキャリアを積んだほうがいい」とアドバイスを頂き、専門学校への進学を決めました。

私は人を助けて命を守る仕事をしたかったので、看護の代わりに介護の専門学校を選びました。看護と介護の仕事は、人の命を大切にする仕事としては同じですが、深く考えると違いもあります。看護の分野では、命を守る為の医療行為は大切な仕事の一つです。しかし、介護の分野では、高齢者や障害がある方の生き方をサポートし、生活の質の向上がとても重要な仕事であると学

びました。

現在、私は特別養護老人ホームで働いていて、勉強した看護と介護の知識と技術を活かしながら仕事をしています。施設には、常に介護を必要とする高齢者が入所していて、私達がお手伝いしながら生活しています。施設で働き始めた時に頭にあったのは、毎日の生活の流れはほぼ同じなので、入所している高齢者は退屈ではないだろうかということでした。私達は毎日、高齢者と交流し、コミュニケーションを図ります。レクリエーションでカラオケをする時は、皆さんはワクワクで笑顔が見られ、私も嬉しくて幸せを感じます。

私は介護の仕事を通して、沢山の人生の教訓を学ばせて頂いています。人生の尊重、思いやり、笑顔を大切にするという言葉は、介護士の役割がいかに重要であるかを思い起させます。これらの言葉を胸に抱いて、介護への道を進んで行きたいと思います。



特別養護老人ホーム

グリーンハウスみと

ニコラスニン

ファアルケロ



佳作 坂倉 尚美 (成華園多賀デイ)

「現場からお送りしてます♡」



茨城県介護福祉士会長賞

私の人生を変えた、介護！

私はベトナム出身で、変わりのない毎日が嫌になってしまい、自分の人生を変えるものを探したいと思って、日本へ行くことにした。

今、やりたいことを見つけ、生きていると感じている。私の人生の大切な出会いの中に、「介護」と言うものが存在している。私は日本へ来て、介護施設でアルバイトをしながら日本語学校に通っていた。おばあ様やおじい様の笑顔があまりにも素敵で、自分にはそれをつくることができないのかと思った。そうだ、介護を勉強すればいいと気付いた。だから、日本語学校の卒業後に介護福祉専門学校に入った。

さて、介護とは何だろうか。きついなどと悪いイメージを言う方が多くいる。確かにきつい時もあるが、それ以上に楽しさを実習やアルバイトで実感してきた。アルバイト先に他の人とあまり話さず、じっとしているおばあ様がいた。ある日、そのおばあ様に今日は天気がいいから中庭の花を見に行きませんかと声をかけ、一緒に中庭へ行った。中庭でおばあ様の学生時代や



いばらき中央福祉専門学校 2年生

ハトウマイ

家族の話聞いてみたら、びっくりするくらいにすごく素敵な笑顔で話してくれた。その後「あなたのおかげで楽しかったよ」と言ってくれたが、逆におばあ様の笑顔が私を救っているよ！と私の心の中で思っていた。このように感謝の言葉を頂くことにより、自分が役に立っているんだ！とやり甲斐を感じ、より良い介護ができるのではないかと思っている。その上で、介護をする時にご利用者様の心と向き合うこともあるので、今学校で介護者役はもちろん、利用者様役の気持ちも体験していて、自分の心も養われている。今、人と話す時に、相手の気持ちに耳を傾けるようになったと感じている。

介護が私の人生を変えてくれたと言っても過言ではない。私のチャームポイントは笑顔。笑顔でご利用者様が一人でも多く笑顔になっていただき、「あなたと一緒にいて良かった」と言っていただけ介護職になりたい。そして、介護の楽しさを発信できれば、と思っている。



佳作 笹本 幸平 (セ・シボンかしま)
「あなたが鬼だったのね～」

茨城県介護福祉士会長賞

ありがとう

就職を控えた高校三年生の時、夢もやりたい仕事もありませんでした。しかし、自分の中で一つ変わらない思いがありました。それは、誰かに何かしてあげたいと思ったのが介護士になろうと思ったきっかけです。

何も分からず介護という仕事に就き不安でいっぱいでした。想像をはるかに超える、とても大変な仕事だと気づきました。社会人になり、プレッシャーもあり、早く仕事を覚えなければ周りの職員にも利用者様にも迷惑をかけてしまうのではないかと焦り、たくさんの方に悩む日々が続いていました。そんな時に、ある利用者様の言葉で救われました。その言葉は、

「いつも面倒みてくれてありがとう。私はいつも孤独だと思っていたけどあなたがいてくれるから、私はこうやって生きていられる」

と涙ながらに感謝の気持ちを伝えて下さいました。誰かに何かしてあげて感謝される喜びを感じました。介護職に就いて初めてうれしさも感じた

瞬間でした。そして、この施設で過ごされている利用者様が良い生活、楽しいと思えるようなサポートや空間が出来るように私も頑張ろうと思いました。

時が経つにつれ、命の重みというのを改めて実感する時が何度かありました。前の日まですごく元気だったのに。そう思う時が多々ありました。社会人になって初めて味わった感覚でした。

最後の時に立ち会える機会はとでも少なくともごく大切な時間でもあると思います。利用者様が今までどのような生活を送ってきたのか、その生活によりそった介護を全力でサポートしたいと思いました。日々の生活を通して、私が利用者様に元気を与えると同時に、利用者様の笑顔でも元気をもらっています。自分の人生にとっても大切な経験です。

これからも、たくさんの方に感謝されるよう努力し、立派な介護士になれるよう頑張りたいです。



特別養護老人ホーム

かさまグリーンハウス

平野 彩里

今年は
オンライン開催
※要申込!

参加
無料



いばらき 介護フェス 2021

IBARAKI KAIGO FESTIVAL

絆

人と人の断つことのできないつながり。
離れがたい結びつき。

11/1月～

映画配信

映画『ケアニン』の世界にどっぷりハマれる2本の配信。
感動作品で心のお洗濯!!

11/1日～7日 ケアニン～あなたでよかった～

11/8日～14日 ケアニン～ここに咲く花～



県内介護現場の
職員さんが多数登場!!
「キズナムービー」を
お楽しみに!

11/11木

トークセッション

映画『ケアニン』のことばから

13:30-15:30
LIVE配信



「ケアニン」シリーズほか
映画プロデューサー

山国 秀幸

1967年1月生まれ、大阪府和泉市出身。介護・医療・地域創生などの社会課題を題材としたエンターテインメント映画の企画・プロデュース、脚本を手掛けている。



介護福祉士
現場密着型コミュニティ
バスぽーと代表

北村 紋世

1993年生まれ、茨城県ひたちなか市出身。グループホームで5年間経験を積んだのち、メディカルケアサービス 株式会社へ転職し、教育研修関係の仕事に従事。社会福祉士やキャリアコンサルタントを落として地域に貢献できることを模索中。



株式会社リクルート
Division統括部
ビジネスプロデューサー

加藤 茂博

一般社団法人 ビープルアナリティクス&HRテクノロジー協会 副代表理事/公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 外部理事
シンガポール大学HR Executive Program/MIT People Analytics修了



一般社団法人
茨城県老人福祉施設協議会会長

木村 哲之

1966年1月生まれ、石岡市出身。6年間の教職を経て、現在の社会福祉法人愛の会に入職。全国老協協では21世紀委員長・副会長を歴任。現在は参事。

優秀作品発表!! 『介護の日』作文&写真 コンクール2021

今年もたくさんのご応募
ありがとうございました!
ひとりひとりが主役。
私達の、ごく身近な美しい記録!



参加申込方法

1 URLにアクセス!!

QRコードを読み込む。



<https://ibaraki-kaigofes2021.studio.site>

2 「参加申し込み」を
クリック!



3 申込画面
「申込フォーム」へ入力!



4 申込完了!!

メールが届きます。



一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会 (令和3年10月現在 会員事業所 1,125 事業所)

〒310-0851 水戸市千波町1918 県総合福祉会館 3階

TEL 029 (241) 8529 FAX 029 (241) 4456 <http://www.jsibaraki.jp>

茨城県福祉人材センター 求職登録者受付中!!

茨城県福祉人材センターは、県の指定を受けて設置された職業紹介所です。
福祉の仕事(介護や保育など)に就きたい方と、福祉施設・事業所を結びます。
無資格・未経験者でもご紹介できる仕事があります。
福祉の仕事に興味のある方は、ぜひご相談ください。



WEBで

「福祉のお仕事」ホームページ(下記QRコード)から求職登録や、求人情報の検索ができます!
登録いただいた方には、希望にあった求人情報をご提供します。登録、利用は無料です。

お電話で

お電話でもご相談いただけます。
•どんな求人が出てののか教えてほしい。
•仕事内容について聞きたい。
そんな方はお電話ください。

職場体験 の実施



中学生以上の方を対象に、福祉の仕事「職場体験事業」を行っています。実際の福祉の職場を体験したいという方は、お気軽にご相談ください。

○体験先 … 県内高齢者施設
○体験内容 … 利用者の介護・介助、作業補助 等



介護の 資格 届出

介護福祉士の資格を持つ方、介護に関わる研修を修了した方は、福祉人材センターに届出をしていただくことで、介護にかかわる最新情報や研修によるスキル維持・向上のサポート・就労支援などが受けられます。
○「福祉のお仕事ホームページ」(下記QRコード)から届出登録できます。

出張 相談会



福祉のお仕事に関する出張相談会をハローワーク水戸及びハローワーク土浦で以下の日程で実施します。

■ハローワーク水戸

令和3年 11月25日(木)・12月23日(木)

令和4年 1月27日(木)・2月24日(木)・3月24日(木)

■ハローワーク土浦

令和3年 11月16日(火)・12月21日(火)

令和4年 1月18日(火)・2月15日(火)・3月15日(火)

■お問い合わせ

茨城県福祉人材センター(社会福祉法人茨城県社会福祉協議会内)

☎029-244-4544 📠029-244-4543

〒310-8586 茨城県水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館2階



▲福祉のお仕事HP



公益社団法人

茨城県理学療法士会

Ibaraki Physical Therapy Association

★北茨城地域自立支援センター

- 保健・医療・介護・福祉・教育・就労の連携推進をお手伝い
- 理学療法士が在宅生活の構築に関する相談を受け付け
- 北茨城市や関係機関とともに地域包括ケアシステム構築に協力

【相談事例】

- 退院・退所後に自宅での自立した生活がしたい
- 訪問リハビリテーションを受けたい
- 職業性腰痛、介護方法等に関する勉強会の講師を頼みたい
- 障がい児・者や家族からの在宅生活に関する相談をしたい

〒319-1559 茨城県北茨城市中郷町上桜井844-6
 北茨城市コミュニティケア総合センター元気ステーション内
 TEL：0293-44-3616



★筑西地域自立支援センター

〒308-0816

筑西市徳持 433-3 (ザ・ヒロサワ・シティ内)
 TEL：0296-47-0294

- 相談支援事業所「ひなた」
(事業実施委託先：茨城県リハビリテーション専門職協会)
- 無料職業紹介事業

★介護予防キャラバン

体力測定に基づく助言や様々なニーズに対して、理学療法士が相談を受け実施します。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しておりません。

【令和元年度実績】

- 「まちの保健室」事業 (茨城県看護協会)
- 「日本理学療法士協会全国一斉介護予防・健康増進キャンペーン シルバーリハビリ体操フェスティバル事業」
- 古河市「古河ふれあい広場2019」
- 水戸市「健康づくりキャンペーン」(茨城県)
- ひたちなか市「健康スポーツフェスティバル」 など



★シルバーリハビリ体操の普及推進

茨城県では、茨城県立健康プラザや市町村の主催する講習会を修了した「シルバーリハビリ体操指導士」による住民主体の介護予防事業が広く行われています。日本理学療法士協会ならび茨城県理学療法士会では、誰もが気軽に取り組むことができ、介護予防と健康増進に高い効果が認められる「シルバーリハビリ体操指導士養成事業」の普及ならびに「シルバーリハビリ体操指導士」の皆様の活動を応援しています。

県内4市町村と協働して上記の事業を市町村単位で展開し、県民の健康寿命の延伸を目指します。

【お問い合わせ先】

公益社団法人 茨城県理学療法士会
 〒310-0034 茨城県水戸市緑町3-5-35 (茨城県保健衛生会館内)
 TEL：029-353-8474 FAX：029-353-8475
 ホームページ：http://www.pt-ibaraki.jp/

Homepage



Facebook



Twitter



介護福祉士会 が 変わりました!



一般社団法人 **茨城県介護福祉士会**

事務局 / 〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918番地 (茨城県総合福祉会館5階)

TEL: 029-353-7244 (月・木曜日のみ) FAX: 029-353-7246 mail: ibaraki080ccw@topaz.ocn.ne.jp





茨城県

茨城県保健福祉部長寿福祉推進課

〒310-8555 水戸市笠原町 978-6 tel.029-301-3326



一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会

〒310-0851 水戸市千波町 1918 tel.029-241-8529

2021年11月発行